

## 【別紙2:公益目的支出計画実施報告書】

## 2. 公益目的支出計画実施報告書

【平成25 年度(2013/6/1 から 2014/5/31 までの概要】

1. 公益目的財産額	30,950,998円
2. 当該事業年度の公益目的収支差額 ((1)+(2)-(3))	14,409,709円
(1)前事業年度末日の公益目的収支差額	9,207,244円
(2)当該事業年度の公益目的支出の額	8,655,134円
(3)当該事業年度の実施事業収入の額	3,452,669円
3. 当該事業年度末日の公益目的財産残額	16,541,289円
4. 2の欄に記載した額が計画に記載した見込み額と異なる場合、その概要及び理由 注	
計画作成時点の見込み額に比べ、継1の実施事業における公益目的支出額は減少したが、継2の実施事業における公益目的収支差額は、計画した見込み額を上回ったため、実施事業全体における公益目的収支差額は、計画作成時点の見込み額を上回っており、今後の実施事業の予定に鑑みても、公益目的支出計画の実施期間に関しては影響がないものとする。	

注:詳細は、別紙様式に個別の実施事業等ごとに記載してください。

## 【公益目的支出計画の状況】

公益目的支出計画の 完了予定事業年度の末日	(1)計画上の完了見込み	平成31年5月31日
	(2)(1)より早まる見込みの場合	

	前事業年度		当該事業年度		翌事業年度
	計画	実績	計画	実績	計画
公益目的財産額	30,950,998円	30,950,998円	30,950,998円	30,950,998円	30,950,998円
公益目的収支差額	8,230,470円	9,207,244円	12,345,705円	14,409,709円	16,460,940円
公益目的支出の額	10,390,235円	9,056,191円	10,390,235円	8,655,134円	10,390,235円
実施事業収入の額	6,275,000円	3,665,430円	6,275,000円	3,452,669円	6,275,000円
公益目的財産残額	22,720,528円	21,743,754円	18,605,293円	16,541,289円	14,490,058円

注:前事業年度及び当該事業年度の計画及び実績の額、翌事業年度の計画の額を記載してください。

## (2)[公益目的支出計画実施報告書]

## 【実施事業(継続事業)の状況等】

(事業単位ごとに作成してください。)

事業番号	事業の内容
継1	学会賞の授与、研究の奨励、文化フォーラム開催等の学術振興事業

## (1)計画記載事項

事業の概要	
可視化情報に関する学術的貢献をたたえ、その振興を図るため、論文賞、技術賞、奨励賞、映像賞など学会賞を贈呈する。可視化情報に関するそれぞれの研究分野における学術的進展を図るため、風洞研究会、マイクロフリー・ビジュアルライゼーション研究会、先端可視化研究会、サイエンティフィックアート研究会、PIV研究会ウェブレットと知的可視化の応用研究会、みえる化研究会等の研究会を実施する。可視化情報の普及を目的とし、一般市民を対象とした文化フォーラムを開催する。これらにより、学術振興を図る。この事業に関する特定の財源や必要となる財産はない。この事業の実施のための人員は、概ね総務委員会、産学連携推進評議会、文化フォーラム実行委員会の委員等及び常勤職員1名、非常勤職員1名である。	
(1)当該事業に係る公益目的支出の見込額	1,204,050円
(2)当該事業に係る実施事業収入の見込額	0円

## (2)当該事業年度の実施状況

事業の実施状況について	
<b>●学会賞等の授与</b> 1. 可視化情報学会 学会賞・論文賞の授与 2. 可視化情報学会 学会賞・技術賞の授与 3. 可視化情報学会 学会賞・奨励賞の授与 4. 第41回可視化情報シンポジウム ベストプレゼンテーション賞の授与 5. 第41回可視化情報シンポジウム アート賞の授与 6. 全国講演会(会津2013)ベストプレゼンテーション賞の授与 <b>●文化フォーラム・東広島(2014年3月9日、東広島市・市民文化センター)の開催</b>	
(1)当該事業に係る公益目的支出の額	361,199円
(2)当該事業に係る実施事業収入の額	0円
(3)((1)-(2))の額	361,199円
(4)当該事業に係る損益計算書の費用の額	361,199円
(5)当該事業に係る損益計算書の収益の額	0円
(1)及び(2)に記載した額が計画に記載した額と異なる場合、その内容及び理由 注	
当該年度の学会賞等の授与に関して、メダル作成は行ったが、見込ほど受賞者数も作成枚数もなかった事、また研究会に関しては、活動件数も予算使用額も見込に到達せず、よって公益目的支出額が見込額より減少した。しかしながら、当該実施事業においては、収入が発生することなく、また翌年度以降、公益目的支出額が増加する可能性が引き続き高い、および継2の実施事業における公益目的収支差額とのバランスにより、公益目的支出計画全体に影響はないものとする。	

注:この事業に係る公益目的支出の額等の変更が、公益目的支出計画全体の実施に影響を与えるか否かについても記載してください。

【実施事業(継続事業)の状況等】

(2)〔公益目的支出計画実施報告書〕

(3)実施事業資産の状況等

(事業単位ごとに作成してください。)

番号 注	資産の名称	時価評価資産の 算定日の時価	移行後に取得した 場合の取得価額	前事業年度末日の 帳簿価額	当該事業年度末日の 帳簿価額	使用の状況	
		0円	0円	0円	0円		

注:算定日に有していた資産については、移行認可申請書(別表A公益目的財産額の算定)に記載した資産の番号(イ1、ロ2・a1・など)を記載してください。

## (2)〔公益目的支出計画実施報告書〕

(事業単位ごとに作成してください。)

## 【実施事業(継続事業)の状況等】

事業番号	事業の内容
継 <sup>1</sup>	学会賞の授与、研究の奨励、文化フォーラム開催等の学術振興事業

## 【実施事業収入の額の算定について】

(1)「損益計算書の収益の額」に対応した(2)「実施事業収入の額」を記載し、その算定に当たっての考え方を記載してください。

損益計算書の科目	(1)損益計算書の 収益の額	(2)実施事業収入 の額	(2)の額の算定に当たっての考え方 注
	0円	0円	
計	0円	0円	

注:実施事業収入の額の算定の記載事項について、必要な説明書類を添付してください。

## 【公益目的支出の額の算定について】

(1)「損益計算書の費用の額」に対応した(2)「公益目的支出の額」を記載し、その算定に当たっての考え方を記載してください。

損益計算書の科目	(1)損益計算書の 費用の額	(2)公益目的支出 の額	(2)の額の算定に当たっての考え方 注
その他	361,199円	361,199円	異なる費用科目はないため、(1)と(2)は同額である。
計	361,199円	361,199円	

注:(1)と(2)が同額である場合には、「科目」欄を「その他」として、まとめた額を(1)及び(2)欄に記載してもかまいません。

## (2)〔公益目的支出計画実施報告書〕

## 【実施事業(継続事業)の状況等】

(事業単位ごとに作成してください。)

事業番号	事業の内容
継 <sup>2</sup>	学会誌及び学術図書等の刊行事業

## (1)計画記載事項

事業の概要	
<p>可視化情報の普及発展を図るため、可視化情報学会誌(年4回)、その増刊号(可視化情報シンポジウム、全国講演会等)を発行する。可視化情報学会の和文論文集である可視化情報学会論文集を刊行する。可視化情報学会論文集に掲載される論文は、可視化情報の技術、応用計測、理論・原理、解析およびそれらに関連のあるもので、会員間の意志の疎通、知識の交換および相互の啓発に有効なものとする。可視化情報学会の英文論文集Journal of Visualizationを発行する。本誌は国際的にも高く評価されているが、国際的情報発信の拡大と内容の一層の充実を図るべく、2010年1月よりSpringer社から出版される体制に移行し、会員へのサービスも充実し、かつ国際的認知度は一層高まりつつある。その他、学術図書の発行を行う。</p> <p>この事業の財源は、広告収入、学会誌頒布収入、学会資料収入、論文掲載料・別刷代収入である。この事業の実施のための人員は、概ね編集委員会における学会誌編集小委員会、和文論文集編集小委員会、英文論文集編集小委員会の各委員及び常勤職員1名、非常勤職員1名、アルバイト1名である。また、この事業に必要な財産は特にない。</p>	
(1)当該事業に係る公益目的支出の見込額	9,186,185円
(2)当該事業に係る実施事業収入の見込額	6,275,000円

## (2)当該事業年度の実施状況

事業の実施状況について	
<p>●学会誌等出版物の発行</p> <p>1. 会誌の発行: 会誌第33巻130号～第34巻133号、33巻増刊号1(第41回可視化情報シンポジウム)、第33巻増刊号2(全国講演会会津2013)を発行した。発行部数は会誌各号1,500部増刊号1・400部、増刊号2部・280部である。なお、会誌130号は「スポーツ・サイエンティフィック」、131号は「治療・診断機器開発における可視化」、132号は「感圧塗料計測」、133号は「こころの可視化」を特集した。</p> <p>2. 論文集のオンライン発行: No.10(2013)、No.11(2013)、No.4(2014)</p> <p>3. 英文論文集の発行: 英文論文集"Journal of Visualization" Vol.16, No.3～No.4, Vol.17, No.1～No.2を発行</p> <p>4. 新規書籍の編集: (1)可視化技術ハンドブックの編集、(2)PIVハンドブックの編集</p> <p>5. その他の刊行物: 第14回、第15回および第16回「可視化フロンティア」講習会テキスト</p> <p>6. 可視化情報学会ホームページの充実・更新</p>	
(1)当該事業に係る公益目的支出の額	8,293,935円
(2)当該事業に係る実施事業収入の額	3,452,669円
(3)((1)-(2))の額	4,841,266円
(4)当該事業に係る損益計算書の費用の額	8,293,935円
(5)当該事業に係る損益計算書の収益の額	3,452,669円
(1)及び(2)に記載した額が計画に記載した額と異なる場合、その内容及び理由 注	
<p>当該年度の広告料収入は掲載希望企業が減ったこと、および学会誌頒布収入は定期購読者数の減少から、見込のほぼ半分またはそれ以下となった。出版全般の支出は、別刷印刷作成減、また、PIVハンドブックの作成状況が進行していないことから、見込より支出金額が減となっている。しかしながら、当該事業全体としては、収支ともに減少しており、公益目的収支差額は、公益目的支出計画を上回っているため、公益目的収支計画の全体に影響はないものと考えている。</p>	

注:この事業に係る公益目的支出の額等の変更が、公益目的支出計画全体の実施に影響を与えるか否かについても記載してください。

【実施事業(継続事業)の状況等】

(2)〔公益目的支出計画実施報告書〕

(3)実施事業資産の状況等

(事業単位ごとに作成してください。)

番号 注	資産の名称	時価評価資産の 算定日の時価	移行後に取得した 場合の取得価額	前事業年度末日の 帳簿価額	当該事業年度末日の 帳簿価額	使用の状況	
		0円	0円	0円	0円		

注:算定日に有していた資産については、移行認可申請書(別表A公益目的財産額の算定)に記載した資産の番号(イ1、ロ2・・a1・など)を記載してください。

(2)〔公益目的支出計画実施報告書〕

【実施事業(継続事業)の状況等】

(事業単位ごとに作成してください。)

事業番号	事業の内容
継 <sup>2</sup>	学会誌及び学術図書等の刊行事業

【実施事業収入の額の算定について】

(1)「損益計算書の収益の額」に対応した(2)「実施事業収入の額」を記載し、その算定に当たっての考え方を記載してください。

損益計算書の科目	(1)損益計算書の収益の額	(2)実施事業収入の額	(2)の額の算定に当たっての考え方 注
広告料収入	635,900円	635,900円	・学会誌 年4回/年(7, 10, 1, 4月)各回1500部発行した。 企業および大学等から広告を募っており、実施事業収入とする。 +合計 企業広告3社のべ6回掲載355,900円 ・シンポジウム論文集 1回/年400部発行した。企業等からの広告を募っており、実施事業収入とする。 +企業広告3社 合計170,000円 ・全国講演会論文集 1回/年280部発行した。企業等からの広告を募っており、実施事業収入とする。 +企業広告2社 合計110,000円
学会誌頒布収入	380,119円	380,119円	・各大学/企業の図書館が配架するために学会誌の定期購読を行っており実施事業収入とする。 +定期購読先機関29件 合計327,619円 ・バックナンバーの販売で、実施事業収入とする。 +販売先1件、販売数2500円×21 合計52,500円
学会資料収入	2,156,650円	2,156,650円	・シンポジウム論文集および全国講演会論文集の販売収入であり、実施事業収入とする。シンポジウム論文と全国公演会論文を会員がセットで予約購入すると7,000円。当日販売および個別販売は価格を若干高く設定している。 +シンポジウム論文集 非会員10,000円×15名、会員(予約購入)3,500円×78、会員(当日 または個別購入)5,000円×103名、その他6,000円×1 合計944,000円 +全国講演会論文集 会員(予約購入)3,500円×78、非会員および会員(当日 または個別購入)5,000円×73名 合計638,000円 ・刊行物収入 刊行物(講習会テキストおよび各種資料のバックナンバー)販売収入であり、実施事業収入とする。 + 合計2件 合計23,000円 ・英文論文集 独シュプリンガー社より Journal of Visualization(英文論文集)のロイヤルティ(1年分)であり、実施事業収入とする。 +ロイヤルティ 合計551,650円
論文集掲載料・別刷代収入	280,000円	280,000円	・和文論文集掲載料収入であり、実施事業収入とする。 和文論文集を投稿・掲載するにあたり、1論文 6頁まで10,000円/頁。 超過頁は20,000円/頁。別刷代50部を超えると超過印刷代を請求。 +論文投稿者人数3名 合計280,000円
計	3,452,669円	3,452,669円	

注: 実施事業収入の額の算定の記載事項について、必要な説明書類を添付してください。

【公益目的支出の額の算定について】

(1)「損益計算書の費用の額」に対応した(2)「公益目的支出の額」を記載し、その算定に当たっての考え方を記載してください。

損益計算書の科目	(1)損益計算書の費用の額	(2)公益目的支出の額	(2)の額の算定に当たっての考え方 注
その他	8,293,935円	8,293,935円	異なる費用科目はないため、(1)と(2)は同額である。
計	8,293,935円	8,293,935円	

注: (1)と(2)が同額である場合には、「科目」欄を「その他」として、まとめた額を(1)及び(2)欄に記載してもかまいません。

別表A〔公益目的支出計画実施報告書〕

【公益目的支出計画実施期間中の収支の見込みについて】

(1) その他の主要な事業について

変更の内容及び公益目的支出計画の実施に対する影響等 注1
該当なし

注1: その他の主要な事業として、「公益目的支出計画実施期間中の収支の見込み」に記載した事業のうち、その事業の内容や実施方法に変更があった場合に、事業番号、変更の内容、その理由及び公益目的支出計画の実施に対する影響を記載してください。  
また、新たにその他の主要な事業を開始した場合は、その旨、当該事業の概要及び公益目的支出計画の実施に対する影響を記載してください。なお特に記載すべき内容がない場合はその旨入力してください。

(2) 資産の取得や処分、借入について

実施内容(計画の変更内容)及び公益目的支出計画の実施に対する影響等 注2
該当なし

注2: 「公益目的支出計画実施期間中の収支の見込み」の備考欄に記載した多額の借入や施設の更新、高額財産の取得・処分等の活動を実施した場合は、公益目的支出計画に与えた影響を記載してください。また、「公益目的支出計画実施期間中の収支の見込み」の備考欄に記載したもののうち、計画内容に変更があった場合に、変更の内容、その理由及び公益目的支出計画に対する影響を記載してください。  
また、「公益目的支出計画実施期間中の収支の見込み」の備考欄に記載したもの以外で、法人全体の財務に大きな影響を与える活動を新たに予定する場合は、その内容、理由及び公益目的支出計画に対する影響を記載してください。なお特に記載すべき内容がない場合はその旨入力してください。



別表B〔公益目的支出計画実施報告書〕

【引当金等の明細】

(1) 実施事業に係る引当金

番号	引当金の名称		目的		事業番号
	期首残高	当期増加額	当期減少額		期末残高
			目的使用	その他	
	0円	0円	0円	0円	0円

(2) (1)以外の引当金のうち、算定日において計上していたもの

番号	引当金の名称		目的		期末残高
	期首残高	当期増加額	当期減少額		
			目的使用	その他	
	0円	0円	0円	0円	0円

(3) 「その他支出又は保全が義務付けられているもの」としたもの 注

番号	財産の名称		目的		期末の価額
	期首の価額	当期増加額	当期減少額		
			目的使用	その他	
	0円	0円	0円	0円	0円

注：算定日において、退職給付会計導入に伴う変更時差異の未処理額を公益目的財産額から控除した場合には、当該未処理額は記載不要です。なお特に記載すべき内容がない場合は空欄のまま「登録」ボタンをクリックしてください。